

【この花咲かそう 香りゆたかに】

私の大好きなAさんが、7月始め、伊勢の中山靖雄先生（修養団常務理事・元道場長）の所へ行き、「先生からこんな美しい言葉を頂いたのよ…」と、その夜電話で伝えて下さいました。

『あれもよし これもまたよし 全てよし この花咲かそう 香りゆたかに』

『雨風を受けて根を張る 草々の 種を秘めたる 花のたしかさ』

『Aさんは、歌を選ばないね。選ばないから歌が喜んで、歌の方からAさんの側に寄ってくるんだよね』

私が書き留める事が出来る様に、ゆっくりゆっくり伝えて下さったこれらの言葉は、どれも奥が深く、胸に響く言葉でしたが、特に今回、感動したのは『あれもよし…』の歌でした。

これ迄の人生の中、様々な体験を通し、(本当に、全て、あれもよし、これもまたよし、全てよし、だわ。どんなに今、マイナスに思える事でも、それは必要なことで、必ずプラスなのよね…)と心から思える私になれた事に感謝しながら「有り難いね」と言った言葉に続けて、彼女が伝えて下さった言葉に胸が震えました。

「ねエ、素晴らしい言葉でしょう。『この花咲かそう』の『この花』は、自分の花じゃなくて、相手様のお花よねエ。たとえ、その事によって、自分は不利益になったとしても、相手様のお花がきれいに咲く様に、一生懸命、心を尽くせばいいのよね。香りゆたかに、相手様のお花をさかせるのよね。本当に尊い言葉よね」

彼女のこの言葉を聴いて、私は、瞬間に自分が清められるのを感じました。

実は、私は彼女からこの歌を伝えられた時『この花』は自分の夢や子どもの事など自分自身に関する事を胸に思ったのです。全てを受け入れ感謝して、自分の『この花』を香りゆたかに咲かせていこうと。

でも、彼女の『この花』は、相手様の花という言葉聴いた瞬間に、ストンとその思いが心に入り、心を込めて相手様の花を咲かせていきたい、いける私になろうと思うことが出来ました。

Aさんと、中山先生、そしてこの魂の美しい人に出会わせて下さった神様に、心から感謝致しました。



自分の子ども達に、そして世界中の子ども達に喜びを遺したい

私事で恐縮ですが、3か月の間に、父の友人3人から有り難い心を次々と届けて頂け、亡き両親に改めて感謝することがありました。

おひとりめはT先生。

M市の老人大学で講演させて頂きました時、偶然、子ども時代に住んでいた教員住宅で一緒だったT先生の奥様にお会いできました。約40年ぶりの再会をとっても喜んで下さって、後日T先生からもお手紙を頂戴しました。

手紙には、当時を懐かしむあたたかな言葉が溢れ、亡き両親への感謝の言葉で締めくくられていました。私の知らなかった事もあり、両親を誇りに思える幸せを頂戴しました。

おふたりめは、父の幼なじみの京都のOさん。

先日、京都のホテルの事で大変お世話になりました。今も経営者として現役でとても忙しく活躍なさっているOさんが、私の頼みに快く、しかも素早く対応して下さいただけでも大感激でしたのに、その後お礼に心ばかりの品をお送りしたら、すぐお電話が掛かってきて、「貴女は身内みたいなものなんですから、どうぞ次回からはこの様な気遣いはなさいません様に…」のお言葉。

私が直接お会い出来たのは数回だけなのに、『貴女は身内みたいなもの』と言って下さったことが嬉しくて涙が出そうになりました。

3人目は、父の大学時代からの親友、大阪のSさんです。

お会いしたのは、やはり数回。でも父が亡くなってからは一層、父の替わりにと色々気遣ってお便りを下さるSさんに、この『心で…』のエッセイを毎月お送りしています。先月、Sさんからめずらしくお電話。何かしらと思いながら出ましたら、エッセイをお送りするのがいつもより遅くなり届かない事を心配して下さいました。「何かあったのでは、と思って…。お元氣なら良かったです…」

本当に有り難いと存じました。



父が亡くなってから3年以上たつのに、今もこうしてご縁を繋いで頂けることに感謝。こんな喜びを遺してくれた両親に感謝。

私も、私の子ども達に感謝してもらえるものを遺したい、日本の子ども達に、世界の子ども達に喜んでもらえる美しい地球と夢を語れる未来を遺したいと強く思います。

